

歴史文化・観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 坂林 永喜

- I 開催年月日 平成 30 年 8 月 1 日（水）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 34 分
III 出席委員等 [出席委員] ◎坂林 永喜 ○中川加津代 高瀬 充子
角田 悠紀 山口 泰祐 樋詰 和子
曾田 康司 大井 正樹
(◎…委員長 ○…副委員長)
[議長] 狩野 安郎
[副議長] 福井 直樹
[説明員] 別紙名簿のとおり（赤阪政策監が都合のため欠席）
[委員外議員] 酒井 善広
[事務局職員] 安東 浩志 松本 武司 柚原 規泰
吉田 昇平
[傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[市長政策部]

- 。日本遺産サミット in 高岡の概要について

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【日本遺産サミット in 高岡と同日開催されるイベントとの連携及び周知について】

- 平成 30 年 9 月 22 日・23 日に開催される日本遺産サミット in 高岡は、中田かかし祭や福岡町づくりもんまつりの開催日と重なっているが、イベント間で客の奪い合いにならないための対策や、周遊できる仕掛けは考えているのか。
- △ 例年、中田かかし祭と福岡町づくりもんまつりの会場をつなぐシャトルバスが運行されている。今回の日本遺産サミットにおいても、同日開催の各種クラフトイベ

ントや各地域での祭事について周知し、日本遺産サミットへの来場後も、そのまま市内に滞在してもらえように進めていきたい。

- 県外からの来訪者が多数見込まれる。本市の各地域の祭りを見てもらうことも、地域の発信に効果があると考え、中田かかし祭や福岡町つくりもんまつりの各会場にも足を運んでいただけるよう周知してもらいたい。（要望）
- 日本遺産サミットが本市で開催されることは素晴らしく、発信の機会にもなる。日本遺産の各認定協議会 67 団体から数百名が来訪されることを市民にも周知し、中田かかし祭や福岡町つくりもんまつり、ミラレ金屋町など、各地のイベント全体を盛り上げられるような運営を行うため、どのような計画を立てていくのか。
- △ 各種イベントについては市広報紙やホームページ等へ掲載するほか、クラフト市場街を含む各クラフトイベントについてはタブロイド判のチラシを作成することとなり、そちらにも十分に掲載ページを設け、周知を図る予定である。併せて、日本遺産サミット in 高岡の単独チラシ等も作成を進めているところである。
- 土日開催であることから、本市全体を盛り上げるため、小・中学生及び高校生に向けてもしっかりとアピールしてもらいたい。（要望）

【日本遺産サミット in 高岡をきっかけとした県外からの来訪者数について】

- 想定される県外からの来場者数は。
- △ 全国における日本遺産の認定ストーリーの数は、現在 67 件である。展示やワークショップ等に各認定協議会からの来場を想定した場合、仮に 1 ストーリーにつき 2、3 人程度と試算すると、約 200 名の来場が見込まれる。併せて、ワークショップやグルメコーナー等の関係で、さらに多くの方に来場いただけるものと推定している。出欠についてはこれから各認定協議会に照会をかける予定である。
- 日本遺産サミットをきっかけとして本市へ訪れる関係者や来場者等については、ぜひ市内で宿泊いただけるよう調整してもらいたい。（要望）

〔産業振興部〕

- 。平成 30 年度 本市の広域観光の取組みについて

〈 委員から次のような質疑等があった。 〉

【市内の宿泊者数の推移について】

- 市内の宿泊者数の推移は。
- △ 観光庁が実施する宿泊旅行統計調査によると、平成 29 年（1～12 月）は約 24 万 8,000 人、28 年（1～12 月）は約 25 万 3,000 人、27 年（1～12 月）は約 25 万 6,000 人である。

【県西部 6 市首長によるシンガポールへのトップセールスの効果について】

- 平成 30 年 1 月、県西部 6 市の首長によるシンガポールへのトップセールスを行っ

たが、その後の広域観光の取り組みにどのようにつながっているのか。

- △ 富山県西部地区観光協議会の一つの取り組みとして実施されたものであり、県西部6市の首長がシンガポールを訪問し、旅行会社等に対し、県西部の魅力のPRや意見交換等を行ったものである。
- このトップセールスを踏まえ、シンガポールから本市へ、どの程度の来訪者数の目標を立てて取り組んでいるのか。
- △ 本市として、国別の目標数値は掲げていない。
- シンガポールから本市へこの程度は訪れてもらいたい、との思いで市長もトップセールスに行かれたと思う。明確な誘客の目標数値を立てるべきでは。
- △ シンガポールへのトップセールスは、富裕層をターゲットに実施した。これがどう影響を及ぼしたかについては、即座に見えたものはないが、その延長上として、30年度は県西部を周遊するファムトリップの実施を計画している。こうした取り組みを継続的に実施することで、来訪者数が増えるものと期待している。今回は、海外の旅行エージェントやメディアスタッフを本市に招請し、どういったところに課題があるか意見を聞くことも意義があると考えており、現場の声を拾う取り組みとして実施するものである。
- せっかく実施したトップセールスを着実に結果につなげていく必要がある。厳しい財政状況の中で結果が出る施策を展開してほしい。(要望)

2 その他

・行政視察について

実施予定であることが報告された。(日程は未定)

〈 委員から次のような質疑があった。 〉

【市内の観光資源の一体的な売り込みについて】

- 先の市長記者会見では「重要文化財 勝興寺を核とした地域づくりが始まります!」と題して発表されていたが、現在、重要文化財の勝興寺が将来的には国宝になるのではと期待する。旅行エージェントとタッグを組んで、この勝興寺や瑞龍寺、高岡大仏、山町筋、金屋町などをワンパックにして県外や国外の方々に売り込めば、少なくとも市内で2、3時間は滞在できる観光が実現するのではと考える。そうすれば、市内で土産品を買い、午後から来訪すればそのまま宿泊にもつながる。現在は、通年観光として観光客は訪れているものの、30分程度滞在したらバスが発着して市外へ流出してしまうためなかなかお金を落とさない。勝興寺を核とした地域づくりが始まって脚光を浴びる中、これまで瑞龍寺に行っていた客を勝興寺が奪うのではなく、市内観光地をワンパックにして売り出すことは効果が高いと考えるが、見解は。
- △ 高岡の歴史・文化資産をパックにして本市の観光地の魅力を売り出すことは非常

に重要である。旅行エージェントへは継続的に売り込みを図っているが、ツアーの行程によっては、瑞龍寺だけ、高岡大仏だけなど、1カ所のみに留まっているものがあることも把握している。この度、勝興寺の本坊の一部公開が始まることをきっかけに、勝興寺に興味を示す旅行エージェントも増えてきており、市としてもこれに乗じて、改めて瑞龍寺や、高岡大仏、山町筋、金屋町などを含めて、パッケージ的な売り込みをさらに強化してまいりたい。

【「5月1日」を活かした本市の歴史文化・観光資源のPRについて】

- 5月1日が「高岡の歴史文化に親しむ日」となり、子どもたちが休みになったおかげで、高岡御車山祭がより盛大に開催された。2019年5月1日は天皇即位のため、国では祝日になることが検討されているが、この5月1日を機会に、県外からの誘客に努めてもらいたい。旅行エージェントとも組んで市外・県外へも売り込むべきと考えるが、そのような検討は進んでいるのか。
- △ 様々なイベントを開催していく際は、濃淡をつけて、「この日に、この場所で」ということをしっかりPRすることは重要であると考えている。現在、具体的な検討を進めている段階ではないが、5月1日は、高岡御車山祭が開催される本市にとって象徴的な日でもある。これをしっかりと周知し、市内だけでなく、周辺自治体や全国にも印象付けるような取り組みが非常に大事だと思っている。本市としても十分認識しながら、取り組んでいきたい。

【市内各地のイベントの見直し・調整について】

- 平成30年7月の産業建設常任委員会では、平成30年度は8月5日が偶然、高岡七夕まつりのメインの日と福岡町リバーサイドフェスタの日程が重なっている件について触れた。また、会派による平成30年度予算要望の際、財政状況も踏まえ、市内の各イベントを一旦整理し、日程的に同時期のイベントや、内容が類似するイベントについて精査してもらいたいと要望していた経緯があった。そもそも祭りというものは、地元の方々が長い歴史を通じて作り上げてきたという背景があるため、即座に整理することができるかという問題はあるが、市は各地域の祭りを助けている立場であると同時に、全体をコントロールする役割も担うと思う。30年度は既に実施態勢に入っているため難しいものの、今後は、財政的な問題や、市内各地で同じようなイベントを実施している実態もあるため、しっかりとメリハリをつけた形で見直し、調整を図るという視点で取り組んでももらいたいと考えるが、見解は。
- △ 現在、市内各地で開催されているイベントは、各地域で長い間積み重ねられ、その実績により市民にも親しまれているほか、まちなかや各地域のにぎわいを創出しているものと思っている。

一方で、同じ傾向のイベントや、同じ日に開催されているイベントがあることも承知している。これを踏まえ、30年度は補助金の一律カットについて言及したが、やはり地域が主体となって実施するイベントにはそれぞれの歴史文化があり、各地域によって実施され、守り継いでいかなければならないと思っている。

しかしながら、31年度に向けて支援事業については、事業ごとにあり方や内容を

よく精査し、31 年度以降の当初予算に反映させていきたい。また、実行委員会形式を含めて市が主体的に実施するイベントについては、積極的に事業内容の見直しや実施手法の精査を行い、関係者と十分協議しながらその方向性を定めていきたい。

いずれにしても、これらのイベントは長い歴史を持っているため、それぞれの想いというものもある。それらを大事にしながら、なおかつ、本市として、イベントを開催する理由を求めていかなければならないことも事実であり、これらをしっかりと見定めながら、取り組んでいきたい。

〔教育委員会〕

- 。 勝興寺保存修理工事及び勝興寺展について

〈 委員から質疑等はなかった。 〉

- ・ 現地視察（勝興寺内覧会）について

委員会終了後の「勝興寺内覧会」について連絡があった。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

歴史文化・観光対策特別委員会 当局説明員（13名）

副市長	村 田 芳 朗		
市長政策部長	福 田 直 之	都市創造部長	堀 英 人
市長政策部政策監 次長	赤 阪 忠 良	都市創造部次長	川 上 孝 裕
文化創造課長	大 野 洋 靖	都市計画課長	久 郷 聡
産業振興部長	川 尻 光 浩	教育長	米 谷 和 也
産業振興部次長 参事	宮 本 哲 哉	教育次長 教育委員会事務局参事	柴 田 文 夫
観光交流課長	長 井 剛 志	生涯学習・文化財課長	杉 森 芳 昭